

実施報告書

松本大学 総合経営学部
観光ホスピタリティ学科
城本高輝

(1) 学術研究・調査活動の名称

島根半島・宍道湖中海ジオパークのワーケーション推進に関する研究

(2) 学術研究・調査活動の期間

令和6年8月1日から令和7年1月20日

□詳細スケジュール

8月 文献調査、インターネット調査
(現地訪問)

9月2日(月)

- ・Cafe Naka 蔵 視察
- ・出雲市役所 商工振興部 産業政策課 企業誘致係 ヒアリング
- ・Izumonomado 視察およびヒアリング
- ・Izumonomado イベント参加

「外国人社員との向き合い方がわかる！パネルディスカッション | ダイバーシティマネジメントの観点から、社内のしくじりの数々を炙り出す」

<https://diversity-management.peatix.com/view>



写真1 イズモノマド(筆者撮影 2024/9/2)



写真2 イズモノマド(筆者撮影 2024/9/2)

9月3日(火)

- ・ジオサイトなど観光資源視察(島根ワイナリー、出雲大社、稲佐の浜、万九千神社、松江城、小泉八雲記念館、売豆紀神社、喫茶店MG)
- ・松江市役所文化振興課ジオパーク推進室(島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会 事務局) ヒアリング

- ・松江市 産業経済部 定住立地推進課、ワークアット ヒアリング
- ・公益社団法人島根県観光連盟 ヒアリング
- ・enun 視察、浅利観光 ヒアリング。



enun(筆者撮影 2024/9/3)



enun(筆者撮影 2024/9/3)

9月4日(水)

- ・ふるさと島根定住財団 地域活動支援課 ヒアリング
- ・ジオサイトなど観光資源視察(潜戸観光遊覧船、原子力記念館、佐太神社、一畑薬師、日御碕神社、出雲日御碕燈台、古代出雲歴史博物館、界(出雲))
- ・出雲市役所商工振興部産業振興課企業誘致係 ヒアリング
- ・日御碕テレワーク施設視察



日御碕サテライトオフィス(筆者撮影 2024/9/4)



日御碕サテライトオフィス(筆者撮影 2024/9/4)

9月5日(木)

- ・ジオサイトなど観光資源視察(由志園視察、溶岩庭園、国指定天然記念物「大根島第二溶岩隧道」竜溪洞と特別天然記念物「大根島溶岩隧道」幽鬼洞の二箇所はゲートが閉鎖されていた。)
- ・美保館視察、美保関代表ヒアリング



由志園(筆者撮影 2024/9/5)



大根島第二溶岩隧道(筆者撮影 2024/9/5)

9月6日(金)

- ・ジオサイトなど観光資源視察(美保関燈台、美保神社朝御饗祭、石畳、仏国寺、島根県立美術館、神魂神社、熊野神社、立久恵峡)



美保神社(筆者撮影 2024/9/6)



美保神社(筆者撮影 2024/9/6)

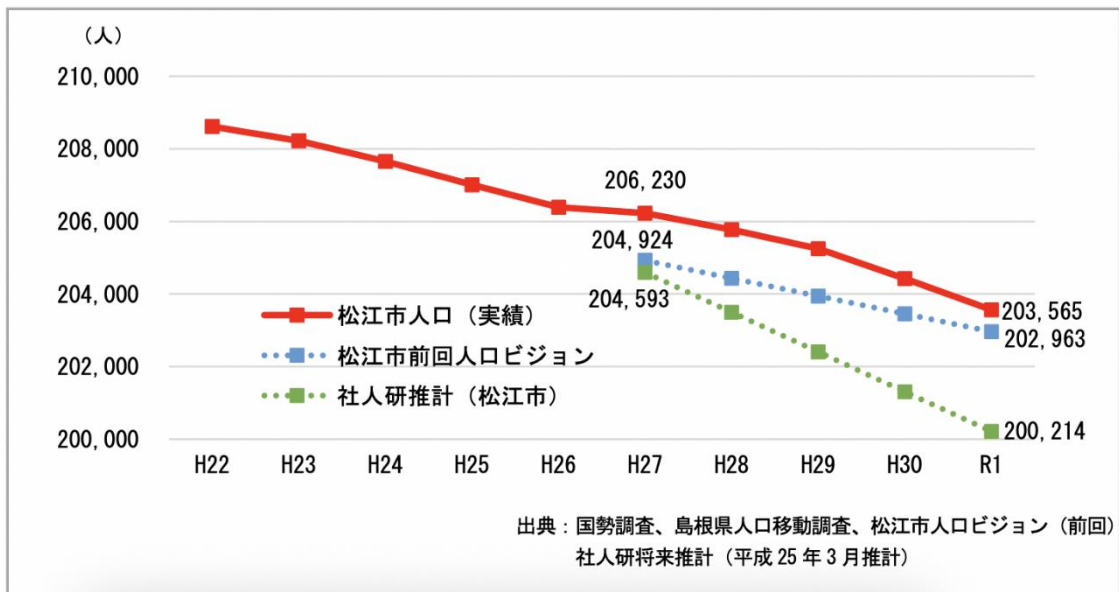
10—11月 現地調査とりまとめ

12—1月 全体まとめ、精算資料作成

(3) 研究の目的

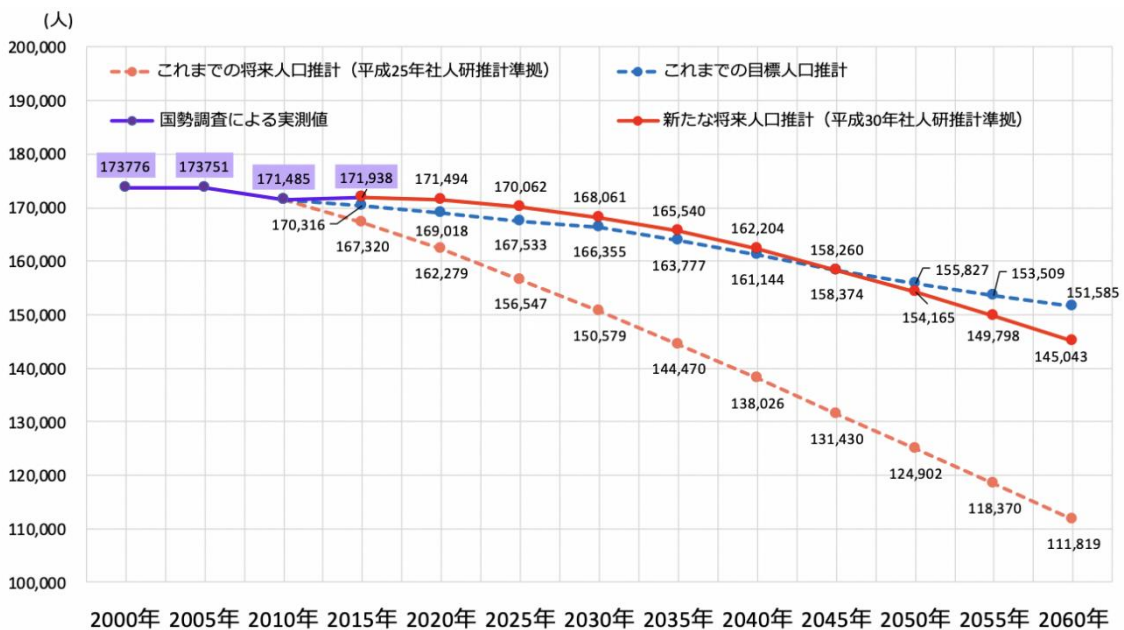
島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、人口減少・少子高齢化問題が深刻になっている。島根半島・宍道湖中海ジオパークは、松江市と出雲市で構成されている。それぞれの市の人口を概観する。

松江市の総人口は、全国の推移よりも早く平成17年の国勢調査で減少に転じている。松江市の総人口の動向は、概ね全国の動向に近い動きを示す傾向にある。令和元年10月1日現在の松江市の推計人口は203,565人となり、平成27年10月1日の206,230人に比べて2,665人減少している。この推計人口は、松江市の前回人口ビジョンで推計した人口202,963人を上回って推移している。しかし、減少傾向にあることに変わりはない。



出典：https://www.city.matsue.lg.jp/material/files/group/2/seisaku2.pdf

出雲市の人口についても減少傾向が続いている。出雲市の推計では、平成 27 年に約 16 万 7,000 人まで減少し、その後も減少が続くと見込んでいた。しかし、平成 27 年国勢調査における出雲市の人口は約 17 万 2,000 人であり、その後の人口動態から当面は、17 万人台を維持すると見込まれている。これは近年の出生率の回復や人口の社会増を反映しており、これまでの将来人口推計（平成 25 年社人研推計準拠）と比較して、総人口の減少幅は大きく改善されている。しかし、合計特殊出生率は 1.75 前後で推移し、社会増も徐々に収束すると仮定していることから、出生数、総人口ともに減少が続くと見込まれている。



出典：

<https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1445817009691/files/izumocitysougousenryaku.pdf>

筆者は、他のジオパークでも学術研究をしてきた。他の地域に比べて人口減少は比較的緩やかであるようであるが、2市ともに減少傾向であり、島根半島・宍道湖中海ジオパークについて人口減少問題は、かなりの長期にわたって継続することが予想される。

こうしたことから、島根半島・宍道湖中海ジオパークの機能保全のためにも、関係人口創出は不可欠と考えられる。本研究は、島根半島・宍道湖中海ジオパークにおけるワーケーションの学術的研究をとおして、人口減少社会と共存する島根半島・宍道湖中海ジオパークの未来像の創出に取り組むことを目的としている。

(4) 研究活動の内容

現地調査では、ジオサイトの現状を確認しながら、体験観光の資源を把握し、テレワークを実施する施設となるコワーキングスペースなどを視察した。また、ワーケーションに関係する地域のキーパーソンにヒアリングを行った。

(5) ヒアリング結果

現地訪問時、関係各部署のワーケーションなどに関する事項についてヒアリングを実施した。以下、要約を記述する。

○出雲市役所商工振興部産業政策課

- ・日御碕サテライトオフィスには、サテライトオフィスとコワーキングスペースがある。個人が借りることも可能
- ・サテライトオフィスについては、空き部屋はない。県外の企業が多い。毎日、来客があるわけではない。
- ・個人は予約しないと使用できない。普段、管理人がいない。
- ・駅前のイズモノマドのビルは市の施設で、コワーキングスペースは民間の会社（ピープルクラウド）が運営している。
- ・日御碕サテライトオフィスは、元は小学校。
- ・この施設の周辺は光回線がなく、出雲ケーブルテレビの回線となる。

○ピープルクラウド

- ・出雲駅前には、ホテルはあるが、オフィスビルがない。そのため、サテライトオフィスについてのニーズがある。

○松江市役所文化振興課ジオパーク推進室（島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進

協議会 事務局)

- ・平成29年12月7日にジオパークに認定された。
- ・ジオサイトの見直しを行ったが、地図の情報は古い。ホームページの情報は新しい。
- ・出雲市、松江市、島根大学で協議会を作っている。島根大学の窓口は、総合理工学部地球科学科と教育学部。
- ・日本旅行で旅行商品を造成した。ホームページで公開している。9月末が募集の締め切り。1泊2日の2コース。初めての取り組み。
- ・ジオパークの観光は、この部署で取り組んでいる。
- ・このエリアには、広島や岡山から来やすい。名古屋からは飛行機も飛んでいる。東京には日比谷しまね館という県の施設がある。飛行機の便があるエリアでこのツアーのチラシをおきながらPRしている。
- ・由志園は牡丹が咲く6月に観光客が多い。
- ・塩見縄手には武家屋敷が残っている。小泉八雲記念館も人気がある施設。
- ・8月上旬に宍道湖花火大会は大きいイベントで集客力がある。
- ・ジオパークの職員は現在5名。
- ・ジオパークは、地層学習の場所になっている。須々海海岸など。

○松江市産業経済部定住企業立地推進課、ワークアット田中洋美さま

- ・松江式ワーケーションに取り組んでいる。
- ・バケーションには、コミュニケーションが必要。
- ・地域交流会の設定をしている。
- ・ワーケーションについては、ワークアットに委託している。
- ・出雲市はルビーなどもあり、ワーケーションにはあまり取り組んでいない。
- ・松江市は、富士通とワーケーションの協定を結んでいる。
- ・外資系の企業もワーケーションで、松江市に来たことがある。
- ・enunの成果は大きい。ワークアットは、enunにオフィスも入っている。
- ・松江市は比較的に他の市に先行してやったことが決め手だと思う。
- ・ワーケーションでは、ビーチクリーンのプランにも取り組んだ。
- ・ホンダ技研もワーケーションに来た。カーボンニュートラル（堀川遊覧船）の取り組みを実施した。
- ・日本ワーケーション協会が、12月7日から13日までイベントを実施する。松江から出雲までで実施予定。

○公益財団法人 島根県観光連盟

- ・本団体は地域連携DMO。
- ・ワーケーションには、令和4年度からスタート。
- ・まずは、ウェブサイトから取り組んだ。島根うるおいワーケーションのサイト。

<https://www.kankou-shimane.com/uruoi-workation/>

- ・ご縁も、美肌も、しまねから。がキャッチフレーズ。美肌県しまねうるおい研究室がベースになっている。<https://www.kankou-shimane.com/bihadaken-uruoi/>
- ・島根県観光連盟は、県庁から補助金をもらい、政策を推進している。
- ・島根県の観光課の予算は、12-13億円の予算。
- ・以前は、モデルツアーにも取り組んだ。COMMUNITY OFFICE NALU で実施した。
- ・ワーケーションだけでは、パイが小さい。やはり、玉造、松江は本来の観光がメイン。
- ・ワーケーションの中期目標などは設定していない。

○浅利観光株式会社 岡 取締役

- ・コロナが原因で宴会場が空いたことが enun（縁雲）の導入のきっかけ。
<https://enun.jp>
- ・ワークアットの林さんは IT 企業の出身で、このホテルにこの施設を導入するよう勧められた。
- ・本館の 2 階と 3 階がコワーキングスペースとサテライトオフィス。
- ・3 階はドロップインに使い、個人のレンタルオフィスもある。
- ・2 階は、個人のレンタルオフィス、複数名のレンタルオフィスがある。
- ・2 年前にオープンした。
- ・最初は、ワークアットのイベントのみだったが、徐々にコンテンツが広がってきた。
- ・2022 年度に最高のグレードのサテライトオフィスの賞をもらった（総務省）
- ・サテライトオフィスの利用は、4 社。東京 2 社、広島 1 社。大阪 1 社。地元の企業が、1 社。現在、商談中が 1 社。全部 IT 企業。
- ・enun の運営は、ワークアットに業務委託。
- ・コミュニティマネージャーは、ワークアットの職員が日替わりで参画。副業者もいる。

○公益財団法人ふるさと島根定住財団 原課長

- ・島根県は、毎年人口が 5000 人減っている。
- ・この財団は設立して 32 年になる。
- ・平成 4 年に、人口の自然減、社会減の課題対応のため設立された。
- ・ジョブカフェ事業において職業の斡旋はしていない。
- ・財団は地域活動まではしていない。あくまでも広報支援。
- ・島根県の高 3 の数は 6000 人。そのうち 4500 人が進学で 1500 人が就職。
- ・進学者のうち 3000 人が県外に行き、1500 人が地元に残る。
- ・暮らしのネットに登録してもらおうと相談員を活用できる。
- ・しまっち、というサイトは 3 年になる。<https://shi-match.jp>
- ・サポーターが、1500 人いる。
- ・ここの財団での関係人口の定義は、来てくれて関係を築いてくれる人のこと。

- ・160件の農泊登録がある。

○ジオパーク協議会 野村先生

- ・現在、ガイドは63名いる。
- ・出雲国の風土記（神話）、地形などが観光資源。
- ・このエリアの保全が重要と考えている。
- ・11月から3月までは船は運休している。



松江ビジターセンター(筆者撮影 2024/9/4)



潜戸観光遊覧船(筆者撮影 2024/9/4)

○COCORETO ココリト大根島 代表 松本さま

<https://cocoreto.com>

- ・コロナ前までは3人スタッフがいたが、今は、ワンオペ。
- ・ここに来る前は、東京でサラリーマンをしていた。自分はUターン。
- ・この島は、牡丹、にんじんの島
- ・ゲストハウスの経営は初めて。農泊の予算を活用した。

○美保館グループ 専務取締役 定秀陽介さま

- ・ジオパークを見に来る人は少ない。
 - ・釣り、美保神社の観光が多い。
 - ・このエリアの8の字ルートの観光に取り組んでいる。
- <https://www3.nhk.or.jp/lnews/matsue/20240513/4030018926.html>
- ・お客様はほとんど日本人。関東が3割、関西や広島が2割。
 - ・ピンポイントで外国人も来る。アゴダ、ブッキングドットコム、AIR B&B で予約してもらっている。
 - ・美保神社は、朝御饗祭・夕御饗祭が有名、
 - ・地域活性化は海士町が有名だが、青山さんは、島だからできると言っている。
 - ・美保関には、学校も商店もない。
 - ・子育て世代の人の移住は1組しかない。

- ・重要伝統的建造物群になったのが大きい。補助金がもらえる。
- ・重要伝統的建造物群の建物は、空き家バンクにも登録している。
- ・美保関にお客様は来ているが、人口は減っている。
- ・観光としての売り上げは上がっている
- ・ここには5軒の旅館がある。
- ・まちづくり協議会には、宿泊業者と自治会と神社が加盟。
- ・島根半島では、自転車の大会とウルトラマラソンをやっている。
- ・自分は観光協会長もやっている。
- ・ワーケーションでいえば、IT合宿とコンサートがある。
- ・美保神社でコンサートがある。竹原ピストルは二回目だった。
- ・自分は五代目になる。平安時代から数えると47代目。
- ・元々ここは北前船の寄港地で、そこから宿泊業に転換。遊郭でもあった。

(6) 調査で把握できた課題や特徴

○ジオパークへのアクセス

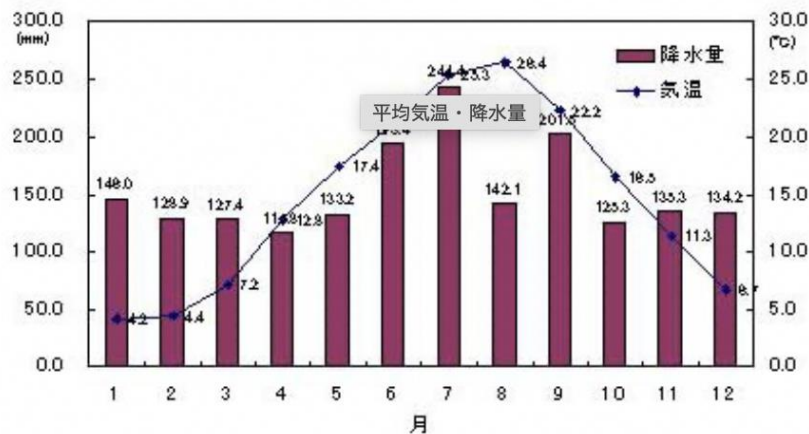
- ・島根半島・宍道湖中海ジオパークの玄関口は、出雲空港および米子空港となる。出雲空港の場合、大都市圏だと東京（羽田/JAL）、名古屋（小牧・中部/FDA）、大阪（伊丹/JAL）、福岡（福岡/JAL）から直行便がある。米子空港の場合、東京（羽田/ANA）から直行便がある。それぞれ1日複数便あることから、航空便のアクセスは良い。
- ・中国地方では、広島（人口約280万人）や岡山（人口約190万人）からはアクセスが良く、ワーケーションのターゲットエリアとなる。

○気候

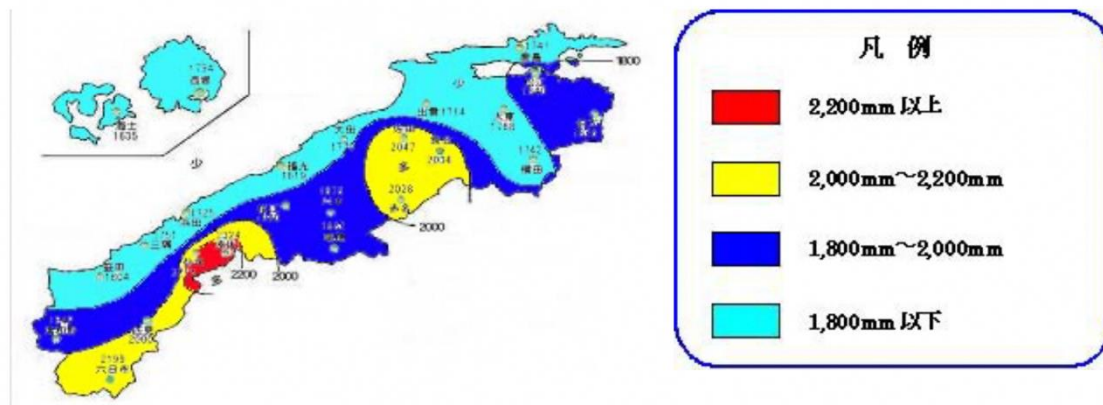
島根県は、年平均気温はおおむね12℃～15℃で、暖候期（4月～9月）には、地域的な差違はあまりないが、寒候期（10月～3月）は、日本海からの気流がもたらす影響で、東部ほど厳しい気象条件にある。年間の降水量は1,600mm～2,300mmであり、平地より山間部が多くなっている。とくに梅雨末期の前線の移動に伴い、集中豪雨を受けることが多い。風は、一般に山陽側よりも強く、冬、出雲平野に吹く季節風が強いのが特徴である。

日本海側であるものの、糸魚川ジオパークのように冬に極端に雪が降るわけではないので、比較的一年中ワーケーションを楽しめるエリアといえる。

【月別平均気温・降水量（1969～2004年）】



【年平均降水量分布図（1979～2004年）】



引用：https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/river/sabo/sabou_rekishi/gaiyo.html

○ワーケーション

- ・松江市のエリアは、すでに松江式ワーケーションとして多彩なプランを開発し、都心部の企業（富士通など）との関係構築が進められている。企業型ワーケーションは、民間が自走しながら進めている。enun の存在は、松江式ワーケーションの中核となっている。

<https://www.telework-matsue.jp/matsue-workcation>

- ・一方で、出雲市については、コワーキングスペース、観光資源が豊富であるものの、ワーケーションは進められていない

- ・島根県として、「島根うるおいワーケーション」というスタイルで、ワーケーションに取り組んでいる。内容を確認すると、主に女性がターゲットになる。

<https://www.kankou-shimane.com/uruoi-workation/>

- ・ジオパークをワーケーションに取り込んだコンテンツは、ほとんど確認できなかった。

○ジオサイト・観光施設

- ・島根半島・宍道湖中海ジオパークは東西に長く、各ジオサイトへの移動に非常に時間がかかる。
- ・一畑薬師は、リトリートや癒しなどのウェルビーイングに着目した取り組みを行なっている。女性をターゲットにした取り組みが明確である。<https://ichibata.jp>

○食事

- ・日本海に面しているため、食が多彩でワーケーション訪問時の重要なコンテンツになっている。
- ・宍道湖七珍、出雲そば、出雲ぜんざいなど全国的に有名なグルメも多い。

以上を踏まえると、ワーケーションの諸条件は、比較的整っていると考えられる。

筆者は、10以上のジオパークにおいてワーケーションの研究活動をしてきたが、この中でも、最もワーケーションの取り組みが進んでいるエリアと考えている。

(7) 提案事項

松江市、出雲市は長期にわたり人口が減少することが予想されている。島根半島・宍道湖中海ジオパークは、この松江市と出雲市の2市で構成されていることから、ワーケーションによる関係人口創出は重要である。松江市では、enunがコアとなり、松江式ワーケーションが確立されており、企業型ワーケーションの基盤が整備されている。出雲市は、ワーケーションの取り組みが確立されていないものの、日御碕サテライトオフィスやイズモノマドなど、仕事や交流の拠点となるコワーキングスペースやサテライトオフィスがすでに設置されており、市内に出雲大社などを含めたジオサイトや観光資源が豊富である。一方で、島根県全体では、「島根うるおいワーケーション」を展開しており、これは女性の個人型ワーケーションをターゲットとしているようである。これらを踏まえると、島根半島・宍道湖中海ジオパーク内では、企業型・個人型ともにワーケーションのさまざまなコンテンツや施設は整備されているものと思われる。しかし、ジオパークをワーケーションに取り込んだコンテンツは、ほとんど確認できなかった。よって、島根半島・宍道湖中海ジオパークを焦点にあて、ジオサイトや体験観光の要素をわかりやすく盛り込んだ、ワーケーションのメニュー開発が必要となるだろう。ターゲットは、関東圏、関西圏、福岡など航空便のあるエリア、さらにアクセスの良い広島県、岡山県の中老年の方々になるものと考えられる。

これまでは、松江市、出雲市、島根県観光連盟がそれぞれワーケーションなどの取り組みを実施してきたため、エリア別に個性的な取り組みとはなったものの、取り組み内容が縦割りとなり、ジオパークの魅力が十分に活かされていない。よって、島根半島・宍道湖中海(国引き)推進協議会が中心となり、ワーケーションのメニューを開発し、関係各部署に提案していくことが必要であると考えられる。

筆者は、以下の2点を具体的に提案したい。

① 副業人材の活用

コロナ禍以降、都心部の企業において副業を解禁するケースが増えてきた。これはテレワーク導入による影響が大きい。また、メンバーシップ型雇用からジョブ型雇用へ転換する企業が増えていることも、副業に取り組むきっかけとなっている。若い人を中心に個人のスキルアップを意識する人が増えていることも要因になっているものと思われる。一方、松江市、出雲市は若い人材が不足している。特に地方部は、IT、マーケティング、広報などの専門人材が少ない。

こうしたことを背景に、島根半島・宍道湖中海(国引き)推進協議会に、副業人材を受け入れ、ジオパークを活用したワーケーションのメニュー開発に取り組むことを提案する。IT、マーケティング、広報などの専門的な知見はメニュー開発に大きく寄与するものとする。

副業人材のプラットフォームは多数あるが、株式会社アナザーワークス(運営プラットフォーム: 複業クラウド <https://talent.aw-anotherworks.com>) を事例に、副業人材の採用を提案したい。

(取り組み手順のイメージ)

- 1 まずは、株式会社アナザーワークスの説明会を実施する。
- 2 できそうな事業から副業人材を採用して、取り組みを開始。
- 3 効果検証
- 4 うまく行く場合は、松江市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・第3次総合戦略、出雲市まち・ひと・しごと創生第3期総合戦略にシェアリングの項目を盛り込み(副業人材だけでも可)、ワーケーションのメニュー開発の手段としてだけでなく、関係人口構築の手段としても、明確に位置付ける。
https://www.city.matsue.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakubu_seisakukikakuka/kakushukeikaku/1_1/2000.html
<https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1584318631258/files/02sougousenryaku.pdf>
- 5 将来は若い人が、島根半島・宍道湖中海ジオパークの政策に定期的に関わる仕組みも可能(政策シェアリングなど)。

※筆者は、三島村ジオパークにおいても実施し、すでにプロジェクトが一部進捗している。

② 企業版ふるさと納税(人材派遣型)

島根半島・宍道湖中海ジオパークを構成する松江市と出雲市において、現在の企業型ワーケーションをさらに活性化し、関係人口の厚みを増すためには、企業版ふるさと納税(人材派遣型)は有効な手段の一つである。企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)とは、地方自治体による地方創生事業に対して、民間企業からの寄付を活用する制度である。例えば、事業構想大学院大学は、「地方創生の推進に関する包括連携協定」を自治体と提携し、プロ

プロジェクト研究を実施している。こうした教育スキームを活用した事例を島根半島・宍道湖中海ジオパークのメニュー開発などに積極的に活用することは有効であり、その実施プロセスが企業型ワーケーションにつながるものとする。

(例)

<https://www.city.nara.lg.jp/site/press-release/172922.html>

<https://www.youtube.com/watch?v=9mGY79e-01k&t=973s>

(8) まとめ

松江市、出雲市は長期にわたり人口が減少することが予想されている。島根半島・宍道湖中海ジオパークは、この松江市と出雲市の2市で構成されていることから、ワーケーションによる関係人口創出は重要である。島根半島・宍道湖中海ジオパーク内では、企業型・個人型ともにワーケーションのさまざまなコンテンツや施設は整備されている。よって、島根半島・宍道湖中海ジオパークを焦点にあて、ジオサイトや体験観光の要素をわかりやすく盛り込んだ、ワーケーションのメニュー開発が必要となるだろう。島根半島・宍道湖中海(国引き)推進協議会が中心となり、ワーケーションのメニューを開発し、関係各部署に提案していくことが必要であるとする。

IT、マーケティング、広報などに専門性がある副業人材を積極的に活用し、ジオパークの魅力を活かしたワーケーションのコンテンツの整備に取り組むと良いだろう。また、企業版ふるさと納税(人材派遣型)の導入もワーケーションの基盤整備につながるものとする。

まずは、副業をとおして人材をシェアリングして、人口減少問題にシェアリングから取り組み、ワーケーションの基盤整備につなげたい。そして、今後は、福祉、観光全般、地域交通などに範囲を広げ、松江市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・第3次総合戦略、出雲市まち・ひと・しごと創生第3期総合戦略に、「シェアリング」の項目を追加できれば良いのではないだろうか。

https://www.city.matsue.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakubu_seisakukikakuka/kakushukeikaku/1_1/2000.html

<https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1584318631258/files/02sougousenryaku.pdf>